令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　みらい青空学園小学部

学年	教科	課題分析	授業改善策
１年	国語	・語彙や文法の理解の定着が図れていない児童がいる。間違えた際に繰り返し練習する習慣がない児童がいる。 ・とめ、はね、はらいを意識することが難しい。	・視覚的教材を積極的に取り入れる。五感を使った遊びを通して日常的な語彙や文法を習得する。話すこと、書くことに繋げ定着させる。 ・授業中や課題の添削の際に、個別で随時指導を行う。漢字ミニテストを行うことで、繰り返し学習する習慣をつける。
２年	算数	・長さ（ｃｍ、ｍｍ）や水のかさ（dL、L、mL）では量的な感覚、時刻と時間では「○時○分から△時△分までの時間」や「○時○分の△分前、□分後の時刻」などが分かっていない児童が多い。	・具体的な場面や物を挙げて説明したり、日常の生活の中で取り入れたりしていくことで、量感に触れる機会を意図的に設け、経験値を高めていけるようにする。
３年	国語	・漢字の定着率が６８％と国語や他教科と比べて低い傾向にある。漢字の読み書きは児童によって、できる・できないの差がはっきりと分かれる。	・普段から漢字を使う環境を整える。(国語の時間に１・２問ミニテスト。国語や社会、総合的な学習の時間の作品作りで、習った漢字を使っているかの声掛けや確認をする。) ・個人個人に応じた練習方法を選べるようにする。
４年	国語	・漢字の正答率は 65%であり、漢字を読むことは概ね身に付いているが、既習漢字を正しく書くことに課題がある。 ・話の内容を整理して自分の考えを伝えたり、相手の話の要点を捉えながら聞いたりすることに課題が見られる。	・国語の学習や日常的な活動の中で、既習漢字を書く機会を繰り返し設けるとともに、誤りやすい漢字は振り返りを行い、正しく書く力の定着を図る。 ・話合い活動の前に話す視点や聞く視点を示し、自分の考えを整理して伝えたり、相手の話の要点を捉えたりできるよう支援する。
５年	算数	・学習の積み重ねが十分ではない児童が多く、既習の方法を使って自力解決することが困難な場合がよくある。 ・文章問題になると、イメージをもつことができず、分からなくなる傾向が強い。	・学習の始めに既習事項を確認したり、黒板などで可視化したりすることで、自力解決の手立てとする。 ・図や数直線に表して考える方法に慣れるように、描かせたり、提示したりする機会を増やす。
６年	国語	・説明文において、段落相互の関係や本文と図表等の情報の関連性を捉え、文章全体の構造や要旨を的確に把握することに課題がある。 ・読み取った情報や筆者の論理展開の工夫を、自らの日常生活や社会の課題解決に向けた思考・表現に結びつけて活用する力も十分に育っていない。	・文章中の「事実と意見」の切り分けや、本文と図表等の視覚情報を関連付けて読み取る活動を取り入れ、情報の妥当性と文章構造を捉える力を育む。 ・把握した要旨や筆者の表現構成の工夫をモデルとし、学校生活や地域の課題に対する提案書の作成や意見発表など、日常生活へ還元する活動を設定する。

令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　みらい青空学園中学部

	課題分析	授業改善策
国語	・「全国学力・学習状況調査」では、平均正答率が都平均を 5%上回り、どの力もバランスが良い。 ・「読むこと」が 13.6%高と際立つ一方、「話す・聞く」や言葉の使い方は平均並みであることから、今後はその魅力に触れつつ、言葉の使い方の定着と発信力を磨くことが期待される。	・授業の中でペアワーク・グループ活動をする時間は多く設けているが、その中での「話すこと・聞くこと」の技術面を強化していく。 ・ICT を活用しながら、煩雑さや複雑さを軽減し、考えを再構築する機会を設けていく。
社会	・授業で学んだ知識と日常生活を関連付けて、思考することが課題である。 ・授業の振り返りを行う時間が少なく、課題提出が難しい状況になっていること。	・時事ニュースを授業で扱い、レポート課題や調べ学習を行い、実生活とのつながりを意識させていく。 ・学習を振り返る時間を設けるために、グループワーク等で時間管理を行うように指導を行い、振り返りを行う時間を設けていく。
数学	・学力調査において、「数学の授業の内容はよく分かりますか」への否定的な回答が約25%あり、授業内で疑問や苦手意識を解消しきれていない生徒の存在が課題である。 ・一方で、全国平均を大幅に上回る領域（図形＋20%、記述式＋25%以上）もあり、生徒間の理解度の差や学習進度の二極化が見られる。	・個々の理解力や定着具合に応じた授業を展開する。また、学力向上支援講師と連携し、生徒が質問しやすい環境を作る。 ・基礎基本の定着を目指す。また、文章問題などの発展的な問題や図形に関する証明も丁寧に指導し、同様の問題を繰り返し解かせていくことで、問題文を読み取る力を向上させる。
理科	・小テストや定期考査、授業の様子から、数式や化学式について、単純な計算や記号の記述ができていても、それらが何を表しているのか、知識の結びつきが弱い生徒が見られる。 ・テストに出そうな内容を暗記するにとどまり、深い理解とまでは至っていない生徒が見られる。	・計算式が何を表しているのか具体的に表したり化学式を粒子モデルで表したりすることで、文字だけではなく、視覚的な理解といった多方向からの視点で物事を表現する活動を意識して授業を行う。 ・知識の体系化ができるように内容の関連を示す。
音楽	・基礎的・基本的な内容や表現の技術を定着させること。 ・音楽用語、読譜力の定着を図ること。 ・曲の内容の分析をする姿勢を身に付けられるように自ら考え、学習していく力を付けさせること。	・発声法や器楽など基礎的知識を定着させるために、一人一人の技術や進み具合を把握し、ICTの利用やペアワーク・グループ活動を充実する。 ・知識の定着については、ワークシートを利用し、ポイント学習を重ね、定着させる。
美術	・主体的に取り組む生徒が多いが、発想を広げ、自分の考えを表現することに課題がある。 ・基礎的な技能を定着させ、自分らしい表現を促していくこと。	・参考作品や ICT、個別の助言を活用して、生徒が発想を広げられるようにする。 ・制作過程を大切にし、発想や表現の楽しさ、完成の達成感を味わえる授業を工夫する。
保健体育	・知識に伴う技能の習得に向け、実践的な活動からゲーム等に生かせる技能の習得を図ること。 ・作戦や戦術などを分析し、自己の活躍できる場面で力を発揮できるようにさせること。 ・基礎体力を向上させること。	・ICT を活用し、ゲームや競技に必要な技能の習得のために何が必要なのかを具体化させる。 ・課題を設定し、各段階で必要な力を自分の言葉で表現できるよう、学習カードを作成・活用する。 ・１単位時間での活動時間を十分に確保する。
技術・家庭	・多くの生徒は主体的に学習に取り組む態度をもっているが、実体験不足から知識・技能や思考・判断・表現に関する力が不十分であると考える。 ・基礎的、基本的な内容を習得させ、さらに発展させるために、生活に生かす力を身に付けさせる題材や指導方法を工夫すること。	・生活に生かせる力を身に付けるために、日常生活と関連付け、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れた授業を実施する。 ・製作を通して作業の楽しさや完成の喜びを味わえるように工夫する。生活に必要な技能の定着を図る。
外国語（英語）	・「全国学力・学習状況調査」では、平均正答率が都平均を３％上回っている。 ・「聞くこと」よりも「読むこと・書くこと」の分野の平均正答率が低い。 ・「全国学力・学習状況調査」において文章から書き手が伝えたいことを読み取り、必要な情報を読み取る問題での正答率が平均並みである。	・授業内の活動で、言語材料の反復活動だけでなく、目的・場面・状況を意識した言語活動を設定する。 ・4 技能の中で偏ることなく、表現活動を設定し、「読むこと・書くこと」の技術面を評価していく。 ・ICT を活用しながら、生徒の興味・関心を引く授業を行う。